

1609年に完成した瑞巖寺本堂は方丈の設計で建てられた。方丈はもともと僧侶の住居として使用されていたが、1600年代までには方丈とその設計は禅寺の本堂で使用されるようになった。瑞巖寺本堂は、安土桃山時代（1568–1600）の贅沢な建築様式の傑作である。瑞巖寺建設を委託した藩主伊達政宗（1567–1636）は、寺の構想を実現するため、西日本にある京都と和歌山の定評ある職人を頼った。彼は方丈の材料 - ほとんどがイトスギとケヤキ - と5年間におよぶ建設を監督する130名の職人たちの両方をつぎ込んだ。方丈は1953年に国宝に指定された。